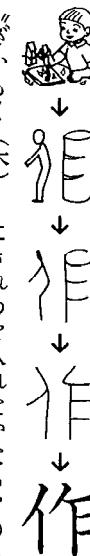


作

二年
筆順
画数
1
ノイイハ 作作
オク・サ
クン つくらる

成り立ち



「さ」（木）に「されめ」を入れたかたちをあらわした「乍」と、人のかたちをあらわした「イ」とを組み合わせて作った字です。

「人」が、「ざいもく」（木）に「されめ」を入れて、きぐをつくること」をあらわした字です。

「ものを「つくる」と。まだ、「しごとをする」といういみにつかう字です。

「つくる」といういみのときに「サク」とよみ、「しごとをする」といういみのときに「サ」とよむことがおおいようです。

算

二年
筆順
14
画数
算 算 算 算 算 算
オク サン オク サン オク サン

成り立ち



「算」は、「道具」の「具」という字。「竹でつくった道具」といういみの字です。

むかし、計算するときに「竹のぼう」をつかいましたが、その「竹のぼう」を「算」、または「算木」といいました。『算木』（かずとり、ともいいました）のことです。

計算するときにつかいましたので、「計算する」「かかる」といういみにもつかいます。

また、「ばかりごと」のいみにつかわれることがあります。

使い方

△きょう、工作のじかんに、ねん土でうまを作りました。

△おかさんは、だいどころで、おりょうりを作つていてます。わたしも、おりようりがすきで、てつだいをします。とくに、ケーキやクッキーを作るのがすきです。

△きょう、工作のじかんに、ねん土でうまを作りました。

△おかさんは、だいどころで、おりょうりを作つていてます。わたしも、おりようりがすきで、てつだいをします。とくに、ケーキやクッキーを作るのがすきです。

△作品（さくひん）（作つたもの。とくに、音楽や芸術など、アートの作品は、すばらしいなどといいます。）

△作文（さくせい）（文しようのこと。また、その作つた文しようとあります。）

△作業（さぎょう）（しごとをすること。「田はたでは、はやくも農作業がはじめられた」などといいます。）

△作用（さゆう）（ほかのものにえいきょうをあたえること。また、そういうはたらき。「このくすりは、作用がつよいの

で、気をつけてとりあつかうように」など）

熟語例

使い方

△算盤（そんばん）（計算するにつかうどうぐの名前です。玉を上げ下げして数をあらわし、計算をします。）

△計算（けいさん）（もんだいにおうじて、数をたしたりひいたりして数のあたいを出すこと。計算は「数をかぞえる」といういみのことばです。）

△計算（けいさん）（計算するのに用いる、といういみのことばです。）

△暗算（あんざん）（どうぐをつかわずに、頭の中で計算すること。）

△計算（けいさん）（計算するのに用いる、といういみのことばです。）

△算段（さんだん）（よい手段はないかとあれこれとかんがえること。）

△算段（さんだん）（よい手段はないかとあれこれとかんがえること。）

△捕らぬ狸の皮算用（まだ狸をつかまえないうちから皮をうつてもうける計算をするということで、あてにならないことをあてにすることをあらわした」とわざ）